KSKQ
一般社団法人 日本障害者カヌー協会 機関紙

パラマウント通信

2019/10/10
東京2020パラリンピックまで１年きったぞ!号
NO.78

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月（一・二・三・四・五・六・七・八日）発行

「真のチャンピオン」を目指して

パラカヌースプリント選手　瀬立モニカ

皆さん、こんにちは。パラカヌー日本代表の瀬立モニカです。

今回、吉田会長から直々に〝障がい者の自立〟について語って欲しいとご指名預かりました。

そもそも21歳、まだまだ人間としても未熟で自立していない私が〝自立〟を語って良いのか…会長から依頼を受けたのは２０１９年すぐの育成合宿でしたが、引き受けるべきか悩み続けていたら、平成が、終わりを迎えていました。

さて、本題に戻りますが、前述した通り、パラカヌーの先輩方を差し置いて人生においての自立を語るのはおこがましいので、今回は、学生の自立に向けた現状についてお話させていただきます。

私は、高校一年生の6月に体育の授業で怪我をして車椅子生活となりました。反抗期を迎え当時の私は、これからは自分のチカラで生きていくし、世界は自分を中心に自転してる！と真面目に思っていました。

しかし、怪我をした後は何をするにも看護師さん達の助けが必要で、誰かの手を借りなければ何も出来ない。自分に嫌気がさすのと同時に、将来どうなってしまうのだろうと不安な気持ちだったことを覚えています。

病院では何をするにも見守って下さる人がいて、失敗したら誰かが手を差し伸べてくれる。退院後、高校に復学し、厳しい社会に戻った際に、病院は守られた環境だったんだと気づきました。

同時に、私は今までたくさんの優しさに支えられていたこと、自立とは、一人で生きていくことではなく、困った時に助けてと言える強さだということを思いました。

そして、意識的に行うようになったのが、助けてもらったら、感謝の言葉を伝えること、そしてそれを優しさとして感じることです。

学生生活では、大学内の宿舎で一人暮らしをしています。しかし生活をする中で、数多くの困難にぶち当たります。大学は、設備や支援のシステムを提供してくれますが、それを継続した関係・モノにしていくのは、障害を持っている人自身の役目だと考えます。大学の友人らに、何が困っていて、どうしたら助かる、出来ること出来ないことなどを自分から発信していく必要があることを身をもって感じています。

たくさんの人に甘え、今は、まだまだ自立しているとは言い難い私ですが、皆さんから愛情たっぷりに注いでもらった恩を、今度は、私が返していきたいです。そのことが自立へ繋がる道だと信じています。

まずは、東京２０２０パラリンピック大会へ向けて精進いたします。

皆様、応援を宜しくお願いいたします。

SHIGA

初めてレインボーカヌーに参加しました！

２０１８年９月16日琵琶湖近江八幡休暇村でびわこレインボーカヌー（以下レインボーカヌー）が開催されました。今回は松浦真実さん、由暉くん親子からリポートを頂きました。

松浦 真実さん・由暉くん

今回、初めてレインボーカヌーに参加させていただきました松浦真実と息子の由暉です。由暉はダウン症で、特別支援学校中等部３年生になります。

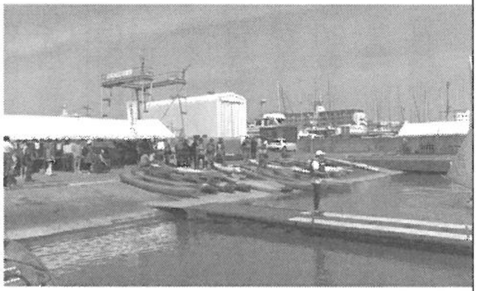
全く初めてのカヌーの体験でしたが、とても丁寧にご指導いただきました。予想通り、しんどいことはイヤ～、水しぶき大好き～な、息子ですので、勢いよくカヌーに乗り込んだはいいのですが、真剣に漕ぐことは殆どなく、水しぶきをあげてははしゃぎまくってました。そんな調子だったので、マンツーマンでサポートして下さっていた方に、水が掛かってしまい、申し訳ない気持ちでいたのですが、「最初はこれでいいです。慣れて楽しめる所からです。」と言っていただき、ありがたく最後まで楽しませていただきました。

その日は、家に帰ってから珍しくゲームの WiiFit を出してきたので何をするのかと様子を見てたら、カヌーのゲームをしたいと言い、昼間の体験がよほど楽しかったのでしょう。

このように活発に見える息子ですが、実はたくさんの合併症を持っており、生後5日目に十二指腸閉鎖の手術を、6ヶ月と1歳では心臓の手術をしています。心臓の方はその後も小6でも手術をしていて、今後も定期的な手術は続いていきます。小さい頃は、痛く辛い経験ばかりでとても臆病で敏感な子でした。突然パニックになることもあり、気軽に出掛ける事など出来ませんでした。

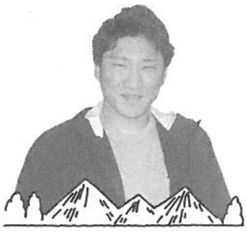
成長するにつれ、徐々に色々な事にトライ出来る様になり、今では、人懐っこく何処にでも外出出来る様になりました。このタイミングでレインボーカヌーに出会えて良かったです。来年も参加したいと、今から親子で楽しみにしています。

IBARAKI

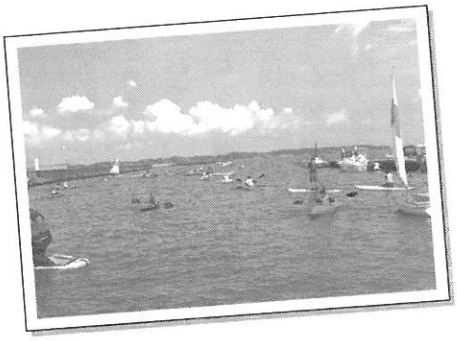


2019年パラチャシーズン開幕！
霞ヶ浦は今年も熱いぞ!!

2019年5月5日、茨城県土浦霞ヶ浦で、パラマウント・チャレンジ・カヌーin霞ヶ浦が開催されました。ここには日本障害者カヌー協会の拠点「Canoe base for the Challenged」があります。艇庫も倍の大きさになり大活躍しています。大会は子ども日と言う事もあり沢山の親子参加がありました。あとスポンサー企業の「ひまわり生命」に社員の方が大勢参加頂き、一緒にカヌーを楽しんで頂きました。今回車椅子バスケットをされている飯田大貴さんから初カヌーの感想を頂きましたので紹介させて頂きます。



飯田 大貴 さん



私は、普段、車椅子バスケットをやっています。車椅子バスケット以外のスポーツはした事が無かった私は、以前、友人とグアム旅行に行った時、始めて行ったカヌーにとても興味を持ち参加しました。

最初は少し転覆するのが怖くて安定した艇に乗っていましたが、段々、もっと速く漕ぎたいと言う気持ちになり、競技艇に乗らせて頂きました。競技艇はバランスをとるのが、とても難しくて何回も転覆し、悔しい思いをしました。いつか、転覆しないで競技艇を乗り熟す様になりたいと思いました。

カヌーは、安定した艇に乗って、風・波を感じながら、プカプカとする楽しみ方や、競技艇で競い合ったりと、様々な楽しみ方が出来る魅力的なスポーツだと感じました。

初心者の私も、沢山の方々にサポートして頂き、カヌーを楽しむ事が出来たので、是非、一度パラチャに参加して、カヌーの魅力を体験してみてください。

日本障害者カヌー協会 年次総会報告

理事
斉藤 典彦

はじめに

　私たち日本障害者カヌー協会(以下、協会)は、より多くの障害のある方に、カヌーの楽しさや自由さを知ってもらうための活動が基本です。東京2020パラリンピックまであと1年になり、テレビやSNSをはじめとする様々なメディアでパラスポーツ、パラカヌーが取り上げられるようになりました。

　カヌーの楽しさや自由さを伝えるため、競うこと、遊ぶこと、それぞれの活動を進めています。活動は別々に実施していきますが、めざすところは同じです。競技をしているひとが遊び、遊んでいるひとが競技を目指す。カヌーに乗るひと、サポートするひと、その周りで遊ぶひと。それぞれ楽しんでいる、そんなカヌーがこの国のあちらこちらで見られ、参加したひとの意識が少しだけ変わって、ひと、まち、世の中が変わっていく。私たちの目指す姿は、はじめて障害のあるひとがカヌーを楽しんでから20数年間、変わっていません。

　私たちの目指す姿が変わっていない、ということは、まだまだ人の意識や、社会が変わっていないということです。楽しみながら、社会がよりよい方向に進んでいくことを願って、今年も様々な活動を進めています。

年次総会内容

　18年度の活動と、その決算内容を報告するとともに、19年度の以下の活動計画を確認しました。

○競技部

　パラカヌーが２０１６年のリオパラリンピックで正式な競技になってから、世界のトップアスリートのレベルはさらに向上しています。世界のトップアスリートに比肩する実力を身につけるため、日本パラリンピック委員会などと連携してサポートを強化していきます。また、選手個人の競技力向上のため、医学的サポートも充実させていきます。加えて、アジアほか諸外国との交流をおこない、国際的なパラカヌーの普及にも貢献していきます。

　競技運営では、日本カヌー連盟との連携を強化し、競技会場のユニバーサルな環境づくり、障害を意識した円滑な競技大会の運営を目指します。各種の大会には、支援スタッフやボランティアを積極的に動員して、サポートできる環境を人の面からも充実させていきます。

　協会が主催する、パラマウントチャレンジ全国２００ｍ競漕大会は、昨年に引き続いて実施し、競技することの楽しさもより多くのひとに知ってもらいます。

　競技をサポートするために、クラス分け委員の養成も継続していきます。知識を身につける講習会と、実践できる場として海外大会への派遣などを進めていきます。

○普及部

　活動の拠点である、霞ヶ浦ラクスマリーナ（茨城県土浦市）では、パラカヌーが随時体験できるような場所になるよう、協会との共同体制を作っていきます。パラカヌーは、まだまだ随時体験できるような拠点が乏しく、今後、日本においてパラカヌーを常時配置する拠点を明確にして、普及体験会と、選手発掘ができる場を作るべく計画していきます。新たな地域として、愛媛、広島、鹿児島において、パラマウントチャレンジカヌーを実施してきます。

○広報部

　協会の活動を広く知らしめるために、また、活動に賛同して協会会員となってもらう方を増やすために、引き続き、Facebookとホームページでの情報発信を強化していきます。パラカヌーや、パラマウントチャレンジ

カヌーの現場から、臨場感のある発信、楽しさの伝わる発信を続けていきます。機関紙は紙媒体のコストや、情報伝播の速度に課題があることを理解しつつも、まだ紙媒体のもつ伝わる力が十分にあると理解し、継続して発行していきます。デジタル化、多言語化など、今後も引き続き検討していきます。

○事務局

協会として、理事、選手、サポートスタッフのコンプライアンス意識の向上と、実践の徹底を進めるために、各分野において相談窓口を設置します。具体的には、各分野の窓口を明確にし、相談窓口のエスカレーションとして顧問弁護士を配置します。これにより、重要事案の発生に対して迅速に対応できる体制をとり、未然防止の活動にもつないでいきます。アンチドーピングについて医学とコンプライアンスの両面で対応し、ドーピング防止の徹底と、意識向上を図っていきます。併せて、女性アスリート、女性スタッフの相談窓口も設けていきます。

理事の承認

以上のような活動を進める体制として、吉田義朗、上岡央子、斉藤典彦の３名を理事として承認しました。

○まとめ

パラリンピックをひとつの契機として、ますます活動が広がってきています。私たちは協会の理念である、カヌーの楽しさや自由さを伝えることを大切にしながら、集中した活動をしていきます。東京２０２０パラリンピックに向けて、様々な課題があることも事実ですが、事にあたっては、コンプライアンス、社会的常識に照らして、まっすぐ前を向ける対応を進めていきます。より多くの方からのご支援をお願いいたします。

収　支　予　算　書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 平成 32 年 3 月 31 日

収入の部（昨年度比）		
Ⅰ　助成金収入	円	
(1) スポーツ振興センター	14,646,000	競技力向上強化費
(2) パラサポ助成金	15,130,000	普及、広告、人件費
(3) 国庫助成金	1,100,000	クラス分け講習会、審判講習会
(4) 協賛金収入	4,600,000 (0)	安心ひまわり生命、ＴＥＳＳ 他
助成金、協賛金収入計	35,476,000	
Ⅱ　賦課金等収入		
(4) 会費収入	600,000	一般会員
(5) 寄付収入・協賛	500,000	GOODS寄付
(6) 参加費収入	2,300,000	海外遠征参加費・普及事業参加費
(6) 雑収益	400,000	委託事業
賦課金等収入計	3,800,000	
合　計	39,276,000	

支出の部		
Ⅱ　一般管理費		
1 人件費	10,000,000	
(1) 役員報酬	4,000,000	吉田（強化費）
(2) 職員給料	4,700,000	上岡・アルバイト１名（パラサポ）
(3) 福利厚生費	1,300,000	社会保険２名分
2 業務費	28,672,000	
(1) 旅費交通費	17,000,000	海外遠征・国内旅費（競技部）
(4) 通信費	1000,000	文書郵送・運搬費等
(5) 器具備品費	4,500,000	競技艇・拠点設備
(6) 印刷費	280,000	機関紙
(7) 業務委託費	2200,000	翻訳委託・冊子撮影・冊子制作費
(8) 交通費	800,000	普及事業
(9) 普及保険料	45,000	レクレーション保険１年分、
(10) 支払保険料	240,000	競技部国内旅行・海外旅行保険
(11) 賃借料	1,600,000	拠点１か月8.75万円×12か月分、 レンタカー、遠征時競技艇レンタル
(12) 事務用品費	400,000	PC・USB・事務用品費
(13) 修繕費	50,000	競技艇修理代金
(14) 宣伝広告費	300,000	
(15) 諸会費	105,000	JPC他
(16) 消耗品	150,000	普及、競技部
3 諸税負担金		
(1) 租税公課	2,000	
一般管理費計	38,672,000	
Ⅳ　予備費	604,000	
合　計	39,276,000	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
パラサポ助成金	公益財団法人 日本財団 パラリンピックサポートセンター	0	11,000,000	11,000,000	0	—
ＪＰＣ助成金	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会	0	21,301,088	21,301,088	0	—
クラス分け委員講習会事業助成金	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会	0	665,804	665,804	0	—
第1回全国障害者カヌー交流大会助成金	公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団	0	500,000	500,000	0	—
合計		0	33,466,892	33,466,892	0	

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

一般社団法人日本障害者カヌー協会

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 助成金収入	(33,466,892)	(31,455,085)	(2,011,807)
② 会費収入	(5,103,853)	(1,234,571)	(3,869,282)
③ 寄附金収入	(2,471,997)	(1,375,400)	(1,096,597)
④ 雑収益	(1,729,799)	(20,096)	(1,709,703)
受取利息	1,140	96	1,044
雑収益	1,728,659	20,000	1,708,659
経常収益計	42,772,541	34,085,152	8,687,389
(2) 経常費用			
給料手当	8,128,115	7,599,960	528,155
法定福利費	1,454,300	1,148,466	305,834
外注費	10,074,426	6,322,371	3,752,055
通信費	188,506	200,047	△ 11,541
荷造運賃	60,336	346,304	△ 285,968
旅費交通費	19,201,514	15,179,945	4,021,569
広告宣伝費	739,248	988,450	△ 249,202
接待交際費	35,840	6,000	29,840
事務用品費	456,166	182,432	273,734
消耗品費	635,325	494,641	140,684
修繕費	0	66,000	△ 66,000
地代家賃	333,440	0	333,440
保険料	165,450	166,810	△ 1,360
租税公課	0	61,500	△ 61,500
諸会費	236,234	105,000	131,234
リース料	406,912	0	406,912
支払手数料	196,152	185,468	10,684
賃借料	471,178	872,381	△ 401,203
雑費	51,071	188,274	△ 137,203
経常費用計	42,834,213	34,114,049	8,720,164
当期経常増減額	△ 61,672	△ 28,897	△ 32,775
税引前当期一般正味財産増減額	△ 61,672	△ 28,897	△ 32,775
法人税、住民税及び事業税	70,000	64,100	5,900
当期一般正味財産増減額	△ 131,672	△ 92,997	△ 38,675
一般正味財産期首残高	△ 92,997	—	△ 92,997
一般正味財産期末残高	△ 224,669	△ 92,997	△ 131,672
Ⅱ 正味財産期末残高	△ 224,669	△ 92,997	△ 131,672

いつも日本障害者カヌー協会をご支援頂き、ありがとうございます。今回、諸般の事情により機関紙の発行が予定より遅くなり申し訳ございませんでした。総会報告と合わせまして２０１８年決算報告書、２０１９年予算報告書を記載させて頂きます。

あと、会員の皆様には会費の更新手続きをお願いいたします。未更新の会員の方には、払込用紙を同封させて頂いております。お手数をおかけいたしますが更新会費２０００円の振り込みをお願いいたします。

貸借対照表

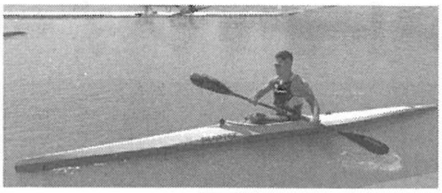
平成31年3月31日現在

一般社団法人日本障害者カヌー協会　(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,373,591	3,465,213	△ 91,622
流動資産合計	3,373,591	3,465,213	△ 91,622
資産合計	3,373,591	3,465,213	△ 91,622
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,343,639	2,730,484	613,155
仮受金	0	698,519	△ 698,519
預り金	184,621	65,107	119,514
未払法人税等	70,000	64,100	5,900
流動負債合計	3,598,260	3,558,210	40,050
負債合計	3,598,260	3,558,210	40,050
Ⅲ 正味財産の部			
1. 一般正味財産	△ 224,669	△ 92,997	△ 131,672
正味財産合計	△ 224,669	△ 92,997	△ 131,672
負債及び正味財産合計	3,373,591	3,465,213	△ 91,622

大会情報

２０１９パラカヌー世界選手権大会


この会場は２回目の高木選手

２０１９年８月21日～25日、ハンガリーのセケドで２０１９パラカヌー世界選手権大会が開催されました。

本大会は東京２０２０パラリンピック出場権をかけた1つ目の大きな大会で各クラス上位6位までの選手には、東京２０２０パラリンピック出場権が与えられる大会で、個人の優先ではなく国、地域が優先されるため、この大会で上位の成績を残したとしても、各クラスにおいて同一の国、地域からは1名のみが東京２０２０パラリンピックの出場権を与えられる大会となっています。

女子 KL1 瀬立モニカ選手
東京 2020 パラリンピック出場内定

今回、日本からは4名の選手が派遣されました。結果は瀬立モニカ選手がＫＬ1女子２００ｍで５位入賞、見事東京２０２０パラリンピック出場内定と言う大きな成果を収める事が出来ました。

今回の世界選手権は前年度の大会に比較して、パラ選手は増加しています。日本でも育成の選手も含めて20名と増えてきていますが、世界の中ではヨーロッパの選手が強く、日本の選手たちにとって大きな壁となっていますがカヌーが日本の社会に溶け込み定着することを含めて、世界の中で今後の発展が期待されています。

コースの様子を確認する加藤選手

スタッフと談笑する加治選手

我々は、あくまでも世界の中の日本という位置からパラカヌーを見て行きたいと考えており、日本の世界選手権への選考のように、いくらかの選手から選ばれて代表として世界選手権に参加しているものや、そうでないものも含まれているため、まだまだ世界的にも発展途上であると言えます。この状況を打ち破るにはもっとカヌーを身近なものにしていき、より多くの障害者がカヌーに乗艇できる社会環境が何よりも必要であり、基盤の拡大が急がれます。

2019 パラカヌー世界選手権大会（日本選手結果）

8月21日	水	9:05	２レース	男子	KL1	予選	2組	2組中	高木裕太		7位	1′００″７５	→ 準決勝へ
		12:15	３１レース	男子	KL1	準決勝	1組	1組のみ	高木裕太		8位	1′０３″６７	→ 準決勝敗退
		15:40	４３レース	女子	KL1	予選	1組	2組中	瀬立モニカ		5位	５４″６１	→ 準決勝へ
		16:20	５０レース	女子	KL3	予選	3組	3組中	加治良美		7位	５４″８１	→ 準決勝へ
		16:25	５１レース	男子	VL2	予選	1組	3組中	加藤隆典		7位	1′００″９４	→ 準決勝へ
		18:10	７２レース	女子	VL1	決勝		決勝のみ	瀬立モニカ	2艇	1位	1′１４″５６	→ 優勝
8月22日	木	10:50	８７レース	女子	KL1	準決勝	1組	1組のみ	瀬立モニカ	4艇	1位	５４″９２	→ 決勝へ
		11:10	９０レース	女子	KL3	準決勝	1組	2組中	加治良美		8位	５４″７９	→ 8位ベストでＢ決勝へ
		11:25	９３レース	男子	VL2	準決勝	2組	2組中	加藤隆典		8位	1′０２″４４	→ 8位ベストでＢ決勝へ
		16:20	１１９レース	男子	VL2	B決勝			加藤隆典		9位	1′０２″３３	→ B決勝9位（18位）
8月23日	金	11:00	１５２レース	女子	KL3	B決勝			加治良美		8位	５４″５６	→ B決勝８位（17位）
8月24日	土	10:20	２０５レース	女子	KL1	決勝			瀬立モニカ		5位	５８″９３	→ ５位入賞

東京 2020 パラリンピックまでの出場条件がかかった大会情報、並びに今後の選考方法に関しては、追って協会より発信予定です。

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八日)発行 発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二-二 東興ビル４Ｆ 定価一〇〇円

イベントカレンダー

詳細、更新情報は協会ＨＰ
イベントカレンダーをご覧ください

開催日	イベント名	開催地
１０月１３日(日)	誰でも楽しもう霞ヶ浦(体育の日大会)	茨城県
１０月１４日(月)	霞ヶ浦パラ体育の日大会	茨城県
１２月１４日(土)	次世代選手発掘プログラム	東京都

「SOMPO ひまわり生命保険株式会社」「テスホールディングス株式会社」と スポンサー契約を結ばせて頂くことになりました

日本障害者カヌー協会は、「SOMPO ひまわり生命保険株式会社」「テスホールディングス株式会社」とスポンサー契約を結ばせて頂く事になりました。ホームページではもうすでにロゴが載っておりますが、今号のパラマウント通信からもロゴを掲載させて頂いております。

２社には日本障害者カヌー協会全体の活動にご支援頂ける事になりました。

SOMPOひまわり生命
あなたが健康だと、だれかがうれしい。

TESS

会員更新手続きのお願い

会員の皆様、毎年４月は会員資格の更新月になっております。下記会費振り込み先に更新会費２０００円の振り込みをお願いいたします。振り込み確認次第、会員カードに貼って頂く、更新ステッカーを送らせて頂きます。

〈加入者名〉 一般社団法人日本障害者カヌー協会
〈口座番号〉 ０１０２０−７−１２９０８
※他金融機関からの振込口座番号 一〇九（イチゼロキュウ）店（109）当座 0012908

会員募集の詳細は
協会ＨＰ会員募集ページ
をご覧ください

(一社)日本障害者カヌー協会 から会員募集のお知らせ

(一社)日本障害者カヌー協会では、一人でも多くの方に、協会に協力いただきたいと願っています。会員になる資格は特にありません。障害の有無は関係ありません。協会主旨に賛同いただければどなたでもＯＫ。入会にあたっては、入会金はございませんので、年会費２０００円を振り込み頂き、協会ホームページから入会申込書をダウンロードして頂き、必要事項を記入して協会事務局宛に郵送をお願い致します。

事務局連絡先
〒107−0052
東京都港区赤坂１−２−２ 日本財団ビル４階
(一社) 日本障害者カヌー協会
電話 03−6229−5440

編集人
〒630−0201 奈良県生駒市小明町 493−17 吉田義朗 方

会費振込先
＊郵便振替です
〈加入者名〉 一般社団法人日本障害者カヌー協会
〈口座番号〉 ０１０２０−７−１２９０８
※他金融機関からの振込口座番号
一〇九（イチゼロキュウ）店（109）当座 0012908

ホームページ：http://www.japan-paracha.org/
協会へのご連絡、お問合せは、ホームページの「協会への問合せ」からお願いします。

今年は、夏に雨が続き、その後、猛暑に次ぐ猛暑！残暑もまだまだ厳しいです。

皆さん、体調を崩すことは無かったでしょうか。夏の疲れも出る頃です。

健康には、くれぐれも気を付けて下さいね！
(とほほのみやざき)

方丈記は「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」で始まります。ニコニコと水の上の変化を楽しみましょう！
(さいとー)

３才になる子どもが、足を水辺につけるのを嫌がります。カヌラーの息子がそんな事でいいのか！と思いましたが、ここ数年カヌーに乗っていない自分から変えていかねばと思います。
(マコト)

SOMPOひまわり生命
あなたが健康だと、だれかがうれしい。

TESS